

4. 早生樹に関する実態調査

早生樹利用に先進的な地域等において、早生樹の需要供給と収益性に関する以下の項目について状況調査を行い、その結果を取りまとめた。

- ① 植栽した早生樹の生産目標（用途、生産量等）
- ② 早生樹の木材供給状況や収益性
- ③ 早生樹の木材としての特性とニーズ

状況調査は、センダン及びコウヨウザンの2樹種を対象としてヒアリング調査を実施した。ヒアリング対象者を表4-1に示す。

表4-1 早生樹に関する実態調査ヒアリング対象者

樹種	ヒアリング対象者	概要
センダン	熊本県天草広域本部	天草センダンプロジェクトを立ち上げ、センダンの植栽、普及・広報活動を行っている。
	梅檀の未来研究会	平成28年6月に設立。センダンの育成方法等の指導等を行っている。
	丸仙工業株式会社 【福岡・大川家具工業会】	センダンを使用した家具等を作っている。SOUSEI（早期循環型地域材活用プロジェクト）の代表。
	株式会社ウエキ産業 【福岡・大川家具工業会】	木材市場や自伐林家から原木を仕入れ、フローリング等、様々な場所に使える建材等に加工している。
	大川化粧合板工業協同組合 【福岡・大川家具工業会】	センダンの突板を作っている。
コウヨウザン	三好産業株式会社	平成27年度より毎年約1～8haを鹿児島県内に植栽している。
	中国木材株式会社	今年度試験的に40本植栽。今後も社有林への試験植栽を考えている。
	林野庁四国森林管理局	土佐清水市で萌芽更新したコウヨウザンを昨年度間伐している。

4.1. センダン

センダンの需要供給と収益性に関する実態調査結果を次に示す。

(1) ヒアリング対象者ごとの実態調査結果

➤ 熊本県天草広域本部

- ・耕作放棄地の活用とセンダンの PR を目標に天草地域 8 箇所（計 2.93ha）にセンダンを植栽。
- ・センダンの植栽面積は年々増加傾向にある（図 4-1）。
- ・シンポジウム開催時（平成 31 年 1 月天草市において開催）、他県を含め多くの参加者が集まるなど全国的にセンダンに対する関心が高まっており、潜在的需要は高いと感じている。

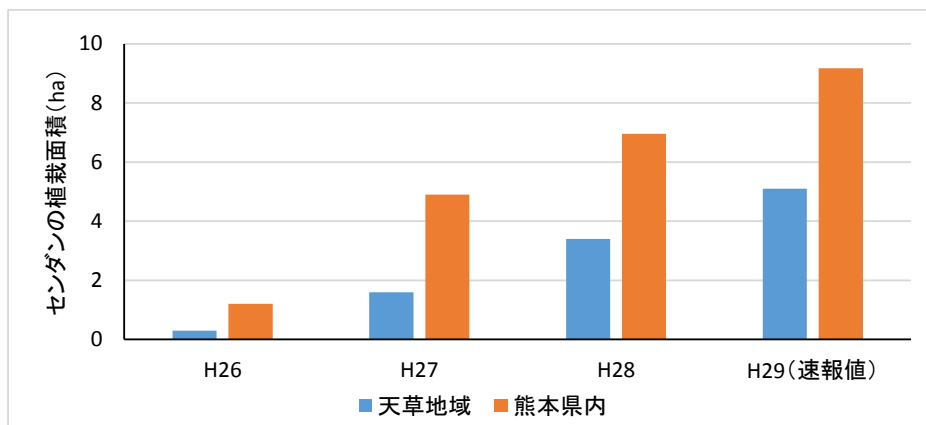


図 4-1 熊本県及び天草地域におけるセンダン植栽面積の経年変化

（データ提供：熊本県天草広域本部）

➤ 梅檀の未来研究会

- ・家具用材、内装材、合板、またパルプチップなど、木のフル活用を考えている。
- ・将来的にまとまったセンダンを供給していきたい。
- ・現在供給されているセンダンは全て天然木である。
- ・熊本県からは、補助金なしでも採算性が見込めるとの試算があった。
- ・県内外から講師のオファーがあり、センダンに対する関心は高まっていると感じる。
- ・大川家具にとどまらず、センダンを欲している人はいる。

➤ 丸仙工業株式会社

- ・硬すぎず軟らかすぎず加工ができ、節もなくデザイン性に優れている。
- ・反ってしまう課題があるため、しっかりと乾燥することが必要。
- ・イスなどの家具に加え、PLT（Plywood Laminated Timber）としてテーブルの天板などの住宅部材に利用。

➤ 株式会社ウエキ産業

- ・「センダンが売れる」ということを広く知ってもらいたいため、最低でもチップ材以上の金額で購入。末口 40cm、4m の直材であれば約 4～5 万円／m³。
- ・現在供給されているセンダンは全て天然木である。今後どのくらい増えていくかは未知数だが、潜在的需要はかなりある。
- ・現在、木材市場や自伐林家から仕入れている天然の原木 20m³／月では全然足りていない。

➤ 大川化粧合板工業協同組合

- ・突板としての需要は現時点で特にないが、今後、フローリング等で需要が出てくる可能性はある。
- ・針葉樹は軟らかくて傷つきやすいが、広葉樹は硬くて表面材に使うことができ、センダンのニーズはかなりあると感じている。

（２）センダン実態調査結果まとめ

① 植栽したセンダンの生産目標（用途、生産量等）

センダン研究の先進県である熊本県でも、試験研究以外でのセンダン植栽はここ数年で始まったところで（図 4-1）、まさにチャレンジし始めた段階である。このため、数値として生産目標は定められてはいないが、センダンの植栽と同時並行で普及・広報活動を進めており、植栽面積は年々増加傾向にあり、将来的には継続的に川下側からの需要に応じた供給をしていくことを目指している。用途については、家具用材、内装材、合板、またパルプチップなど、全ての部分を無駄なく効率的に活用することを考えていた。

② センダンの木材供給状況や収益性

現在供給されているセンダンは全て天然木であり、人工林からの供給はない。現在、木材市場や自伐林家が出している天然の原木は、最低でもチップ材以上の金額、末口 40cm、4m の直材であれば約 4～5 万円／m³程度で取引されている。また、収益性については、熊本県で補助金なしでも収益性が見込めるとの試算が出ている。

③ センダンの木材としての特性とニーズ

木材としての特性は、硬すぎず軟らかすぎず、また節もない点で針葉樹に勝っており、加工性やデザイン性にも優れている。

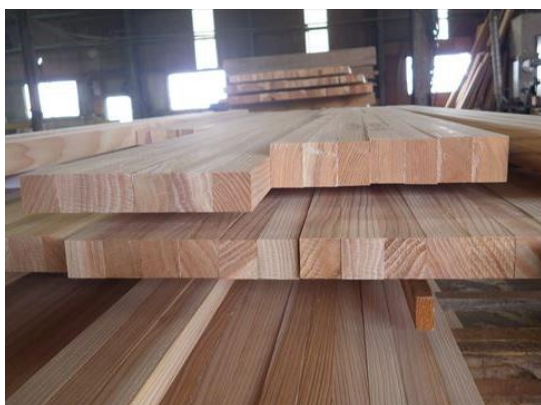
木材としてのニーズは、イスなどの家具に加え、テーブルの天板や住宅部材に利用されており、センダンの潜在的需要は非常に高い。



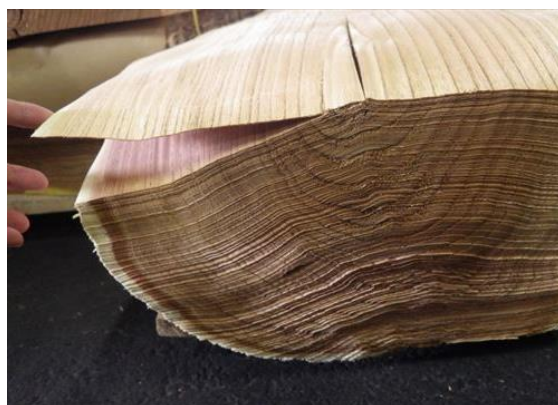
スギ (12mm) をセンダン (4mm) で挟んだ
PLT



キッチン付属のテーブル



建材



突板

4.2. コウヨウザン

コウヨウザンの需要供給と収益性に関する実態調査結果を次に示す。

(1) ヒアリング対象者ごとの実態調査結果

➤ 三好産業株式会社

- ・チップ利用（バイオマスや製紙）を想定しているが、現時点で生産量は特に定めていない。
- ・志布志市・霧島市の分収造林地は間伐を2回行い、45年伐期を計画。
- ・伊佐市の分収造林地は15年伐期で萌芽更新2回（3回収穫）を計画。
- ・まだ植栽後間もないため供給には至っておらず、収益性についても試験的に植栽している状況であるため、まだ計算する段階ではない。

➤ 中国木材株式会社

- ・試験的に植栽した段階のため、現時点で生産目標はない。また、用途はバイオマス利用ではなく、主に住宅の構造材を考えている。但し、材質に問題がないかどうか慎重に見極める必要がある。
- ・まだ植栽後間もないため供給には至っておらず、収益性についても試験的に植栽している状況であるため、まだ計算する段階ではない。

➤ 林野庁四国森林管理局

- ・H30年1月に間伐したコウヨウザンは四万十町森林組合の大正集成材工場へ約10m³搬出。今後は未定。
- ・四万十町森林組合で現在、天板や机を作っている。今後の予定は特になし。

(2) コウヨウザン実態調査結果まとめ

① 植栽した早生樹の生産目標（用途、生産量等）

用途は、チップ利用または住宅の構造材と、ヒアリング先によって異なった。ただ、いずれの場合も、試験的に植栽をしている段階で、現時点で生産目標を定めるまでには至っていない。また、住宅の構造材については、材質に問題がないか懸念を示しており、今後の展開は未定である。

② 早生樹の木材供給状況や収益性

高知県土佐清水市で間伐されたコウヨウザンは集成材工場へ搬出され天板等に加工されていたが、それ以外は植栽後間もない段階で供給には至っていなかった。また、収益性についても試験的に植栽されている状況であるため、まだ計算する段階ではない状況であった。

③ 早生樹の木材としての特性とニーズ

住宅の構造材として使いたいというニーズがあったが、材質に懸念を示しており、今後のニーズについては不明である。なお、高知県土佐清水市で間伐されたコウヨウザンは天板や机に加工されている。